

教師用「ナレッジマネジメントサイト」のデザイン

学校教育専攻

総合学習開発コース

山内 雅博

指導教官 藤村 裕一

1. 問題の所在

教育活動の充実を図るためには、教師の指導力を高めることが必要である。しかし、これまで、教育課程全般における指導技術、子どもや保護者への対応の仕方、すべての教育活動を支える理念となる学習観などは、教師一人一人が経験知・暗黙知として蓄積するのみであり、多くの教師によって共有し、活用されることは少なかった。このような教師の知は、個人的な財産と考えられており、共有し有効に活用するという発想はあまり見られない。教師一人一人が考え抜いて生み出した知は、本当に使える貴重な知である。このような知を共有し、有効に活用することや、現状に対応する方策や工夫を付け加え、知を創出していくことが、教育活動を充実していくために重要である。そのために、知を共有し、その共有の場の中から新たな知を創出する「ナレッジマネジメント」の手法を学校現場に取り入れることが効果的である。しかし、現在、学校におけるナレッジマネジメントの研究は、校内研修会など学校内におけるものに限られている。また、情報通信ネットワーク上の教育に関するWebサイトにおいても、ナレッジマネジメントという視点で、学校現場の意識に合う形で運営が行われているものは非常に少ない。そこで、全国的な範囲で活用することができ、知の共有・創出を図るための場として機能する「ナレッジマネジメントサイト」を情報通信ネットワーク上に設置することが必要であると考えた。

2. 研究の目的と方法

充実した教育活動を行うための教師の力量向上をめざしたナレッジマネジメントサイトの在り方について考察し、学校現場に合うナレッジマネジメントサイトのデザインを提案する。

- (1) 教育に関するWebページについての教師の意識を調査し、学校現場に合うナレッジマネジメントサイトのデザインについて考察する。
- (2) 教育に関するWebページを分析し、その特徴について考察を行う。また、サイト管理者に運営について聴き取りを行い、サイトデザインについて考察する。

3. 教師の意識調査アンケート結果と考察

- ・学校現場では時間的余裕がないので、活用に至っていないというのが現状である。
- ・情報の所在がわかりにくいこと、必要な情報の有無がわからないことが、活用に至らない大きな理由である。
- ・活用意志のある教師は、インターネット経験の長い、コンピュータの扱いに慣れた教師だけではない。
- ・メールなどのデジタル上の広報媒体よりも、パンフレットなどの使い慣れたアナログ上の広報媒体の方が目を通しやすいと感じている。
- ・情報発信に対する教師の意識は、発信しないという意識がかなり強い。

4. 教育に関するWebサイトの分析、考察

- ・ナレッジマネジメントを行う素地として、教師間の交流を進めるためのコンテンツが重要である。

- ・活用者の意識に対応したカテゴリーを用意し教育情報を提供することが有効である。
- ・共有意志を高めるためにインセンティブを導入することが有効である。
- ・Web サイトのシステム管理やメンテナンスを行う人的支援だけでなく、Web サイトを活性化させていくための人的支援が重要である。
- ・Web サイトを活用する中で、学習観の形成・転換をめざすという発想は、あまり取り入れられていない。

5. 「ナレッジマネジメントサイト」のデザイン

(1) 「意識」カテゴリーにおける考察

時間的ゆとりの少ない学校現場に対応できるよう検索性を高めたり、豊かな学びを行うための情報を定期的に知らせたりするなどのデザインが必要である。

(2) 「活用」カテゴリーにおける考察

Web サイトの活用を促進するためには、提供されている情報の一覧性や検索性を高めることが重要である。また、コンピュータ活用で初心者の教師も対象としたWeb サイトの在り方を考え、ナビゲーションをつけたり、トップページの項目を整理したりするなど、目的とする情報を見つけやすくするデザインが必要である。さらに、活用者に対応する手だてとして、必要としている知や意識に応じて、Web サイトの内容をカスタマイズできるようにし、活用者自身で内容や項目を作り上げたり、意見や考えを書き込むことができたりする「マイページ」を作成できるようにする。

著作権については、提供者、活用者ともに自己責任で著作権に対応するようデザインすることが必要である。また、活用者の著作権保護への意識を高めるよう利用規程を明示することも必要である。

広報においては、パンフレットなどの紙媒体を中心とした広報が有効である。また、配布は、広く一般の教師に参加してもらうことを考え、各教師1部配布する必要がある。

(3) 「共有・創出」カテゴリーにおける考察

共有促進の工夫として、コンピュータに不慣れな活用者にもわかりやすいよう配慮を行うことが重要である。また、共有意志を高めるためにインセンティブを導入する。その際には精神的インセンティブを重視することが重要である。

共有された教育情報の質を高めるために、情報活用後のフィードバックを活用手順に組み込む。また、見てもらえる実感を提供者が味わうことができる工夫を行うことも重要である。

共有・創出の素地となるネットワーク・コミュニティが活発に運営できるよう、デザインチームや事務局などのWeb サイトを活性化させていくための人的支援をシステムとして確立しておくことが重要である。

(4) 「構想」カテゴリーにおける考察

新学力観に基づいた「生きる力」の育成をめざし、これまでの知識注入型の学習観から、問題解決中心の学習観へと学習観の形成・転換が必要である。Web サイトにおいても学習観の形成や転換が図れるよう、ネットワーク・コミュニティにおいて、学習観を含めたアドバイスや議論が行えるようにすることが必要である。大学教官などの研究者にアドバイザーとしてかわってもらい、客観的なコメントをもらえるようにすることも有効である。また、学習活動の計画を立てる際に、学習観に沿ったテンプレートをもとに、ポイントや考え方を参照しながら、学習活動を立てることができるようにし、活用する中で学習観について必要なポイントを学ぶことができるようにする。